

2020年3月期 第2四半期 決算説明会 Q&A サマリー

Q: 機器の上期売上高は修正予想とほぼ同額だが、セグメント利益が少し上振れている理由は何か。また、下期予想は半導体向けを中心に売上高を引き上げているが、ロジックとメモリーのどちらが増加につながるのか。

A: 上期実績で利益が上振れた要因は経費削減による効果です。下期予想で売上を引き上げている背景は、半導体メモリー用設備投資の再開を見込んでおります。

Q: 自動機のセグメント利益が上期に改善した背景、および下期予想の利益率が低下する理由

A: 上期にセグメント利益が改善した理由は、固定費を含む経費削減、オーダー毎の原価管理、セールスマックスの改善となります。下期は、売上は上期より増加することが見込めますが、マージンの厳しい物件もあるため、利益率は低下を見込んでおります。

Q: 上期の営業利益は売上高減少を販管費と原価率の改善でカバーしたが、下期の利益と固定費の考え方

A: 上期実績と下期予想を比べると、売上高増加による増益は見込めますが、自動機の売上に利益率の厳しい物件がございますので、原価率が悪くなる可能性があります。固定費については、今期、機器の東北工場を立ち上げ、自動化と生産効率を高める設備投資を行いましたので、稼働率を上げて生産性を上げるとともに、人件費や経費をコントロールして利益につなげてまいります。

Q: 機器のセグメント利益率が二桁に戻るの、来期のいつ頃を見込んでいるのか。

A: 受注の入り具合が予想以上に伸びますと、来期に利益率が二桁に戻る可能性はございますが、現時点で時期を読むのは難しいです。

Q: 中国でEMS向けの注文が増えてきているとあったが、その要因と背景

A: スマートフォンの周辺部品の設備投資が関連するサプライヤーで始まりました。スマートフォンのEMS投資は、これから始まると見込んでおります。

Q: 自動機 リチウムイオン電池用巻回機の需要動向

A: 日本国内の電池メーカーは、リチウムイオン電池用の設備投資が増加してきております。中国市場はEV(電気自動車)に加え、NEV(New Energy Vehicle:新エネルギー車)にハイブリッド車が追加されることとなり、電池メーカーの今後の動向に注目しております。

Q: 今期は市場環境から業績予想を修正されていますが、期初に発表された中期経営計画の目標に戻せるのか教えてください。

A: 先を見て積極的に投資した装置や人の関係もあり、その点を考慮しますと、中期経営計画に掲げた利益率に回復するのは簡単ではないと考えておりますが、計画達成を目指して取り組んでまいります。